

2023 年度「ケニア短期派遣プログラム報告書」

農学部・生物資源開発学科・1 年・澤井優希

1. 当初の目的

ケニア短期派遣プログラムに参加した目的は、視野を広げるためであった。視野を広げるためには、様々なことを実際に見聞きし経験していくことが大切だと考えている。今までにアフリカ諸国を訪れたことがなく、一度は訪れてみたかったため、アフリカを訪れ新しいことを経験する良い機会になりそうな本プログラムを知り応募した。

また春に行われたケニア短期派遣プログラムに参加した方から、プログラムを通して大学内の日本人学生との交流の幅が広がったという話を伺っていた。所属が農学部で厚木キャンパスに通っていることもあり、通常他学部他学科・他学年の学生との交流の機会が少ないため、このプログラムを通して大学内での交友関係を広げることも目的のうちの一つであった。

最後に、プログラムへの参加条件として留学前の課題解決力醸成ワークショップへの参加があり、そこでの活動を通してケニアに友人が欲しいと考えるようになった。ワークショップでアフリカにおける課題を解決するためのビジネスアイデアを考える活動を行った際、現地の実情や情報、現地人の声などが少ない状態では難しく感じた。そのため現地に友人を持つことで、たくさん話をして現地の実情をもっと詳しく知ることができるようになりたいと考えていた。

2. 目的達成のために現地で活動した内容

まず、せっかくケニアに来たからにはできる限りのことを吸収して帰ろうという気持ちで臨んだ。様々なことを実際に見聞きし経験して視野を広げることが目的であったため、町並みなどの景色をよく観察し、現地の食べ物にはできる限り挑戦し、現地の人と積極的にコミュニケーションをとることを努めて行った。また現地の方々とのコミュニケーションや講義、説明などはすべて英語で行われ、聞きなれないアフリカ独特の英語を話す方も少なくなかったが、最初から遮断するのではなく諦めず聞くように努めた。ジョモ・ケニヤッタ農工大学の学生が同行してくれる場面も多くあったため、わからないことがあったときは近くにいる現地の学生に質問するなどして積極的に学ぶ姿勢を心掛けた。

次に、一緒にプログラムに参加した 15 名の学生たちとの交流を深めた。本プログラムを通して、ほぼ全員の学生と仲良く話せるようにまでなった。これは特に努めて何かをしたわけではない。約 2 週間の間寝食を共にしてよく話し、ケニアでの素晴らしい時間を共有した結果であると考えている。

最後に、現地の学生とも交流を深めた。渡航前は現地の実情をよく知るためにケニア人の友人を作りたいと考えていたが、ケニアでの交流を通して本来の目的とは関係なく仲良くなることができた。現地で行動を共にしてくれたジョモ・ケニヤッタ農工大学の学生たちとは、プログラム内のいろいろな場面で行動を共にした他、文化交流

会を行ったり大学内を散策したりして多くのコミュニケーションを行った。ケニアのことを積極的に教えてくれたり、私が英語ですんなりと言いたいことを伝えられなかった時には汲み取ろうとしてくれたりするなど、とても優しく親切に接してくれる学生ばかりだった。最初から最後まで好意的に接してくれたケニア人学生たちとは、プログラム期間中に交流を深め最後には別れを惜しみ、個人的に連絡を取り合うまで仲良くなることができた。学生以外にも、一泊だけお世話になったホームステイ先の9歳の男の子と連絡を取り合い今後日本語の勉強を一緒にすることが決まっている。本プログラムを通してケニアでの交友関係を広げることができた。

3. 今後の取り組み

本プログラムを通して、自身の英語力の良い点悪い点どちらも見つけることができた。

まず、以前よりも会話の面で困ることが少なくなり、自分の言いたいことが伝えられないもどかしさを感じる回数が少なくなっていることに気が付いた。会話力の向上のためにはたくさん会話をして慣れていくことが必要不可欠だと考えるため、今後も英語で会話をする機会をたくさん作り会話力を向上していく。伝える力の向上が見られた一方で、会話において聞き取る力がまだ足りないように感じた。もっと聞き取る力を改善し、相手の言いたいことをより理解することができるようになればもっと会話を膨らませることができて仲良くなれると考えるので、会話でしっかり聞き取る練習にも取り組んでいく。

次に、今までの英語の勉強を通して専門的な用語をいくつか知っていたことで、プログラム中に助けられることがあった。一方で単語を知らず正しく聞き取ることすら難しい場面も経験した。この経験から改めて語彙力の大切さに気付かされた。日常会話で使えるフレーズだけでなく、専門的な用語も積極的に勉強していく。

このプログラムを通して、自分の居心地の良い場所を飛び出して経験を積むことの大切さや楽しさを体感した。これからもより多くのことを見聞きし、より多くの人と交流して、より多くの経験を積みたい。そして視野をどんどん広げていきたいと考えるため、コミュニケーションをとるツールである英語を磨くこと、様々なことに挑戦することを諦めずに続けていく。

4. その他

(ア)持っていて良かったもの

- ・エコバック ーケニアではレジ袋をはじめとするプラスチックバックが禁止されており使えないため、袋が必要な時には有料の袋を買うことになる。
- ・常備薬 ー何かしら体調不良になるので必要不可欠である。
- ・トイレットペーパー/水に流せるティッシュ ートイレにトイレットペーパーが用意されていないことが多いので、持っていると便利である。特に水に流せるティッシュだと、ポケットティッシュなので容易に鼻をかむこともできるし持ち運びやすくより便利だと感じた。
- ・日本のお菓子 ー日本のお菓子は美味しいのと、周りに配りやすいため、バス

などで長時間移動する際に便利であった。

(イ)用意したがいらなかったもの

- ・日本食 ー私にはケニアの食事はかなり合っていて、プログラム中日本食が恋しくなるようなことが一度もなかったため必要なかった。水やお湯を入れると食べることができる非常食のお米、ふりかけ、インスタント味噌汁を持って行ったが、持っていかななくても困らなかった。

(ウ)現地で使用したお小遣いの金額

現金は100US\$分も使っていないが、クレジットカードではドバイでの出費も含め3万5千円ほど使った。コーヒーやナッツ類などのお土産をたくさん買うための出費が大きかった。

5. 次年度以降の参加者へ

(ア)事前に準備した方がよいこと

- ・ワクチン接種を希望する場合、予約の空き状況の確認だけでも事前に行っていくとよい。

(イ)勉強しておくべきこと

特になし。



